

研究主題 「ふるさとを愛し、豊かな心を育む道徳教育の実践」

～自他ともに尊重し、よりよく生きようとする生徒の育成を目指して～

深谷市立豊里中学校

1 研究主題の設定理由

郷土の偉人「渋沢栄一翁」生誕の地を学区に持つ本校は、栄一翁が大切にしたい「立志の精神」と「忠恕の心」を学校経営の柱とし、故郷を誇りに思える生徒の育成を目指している。

また、新学習指導要領では、子供たち一人一人が、社会に主体的に向き合っ
て関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、あらゆる他者を価値ある存在として認め、ともに協働できるなど、幸福な人生の創り手及びよりよい社会の創り手となっていけるようにすることを重視している。本校でも、自らの可能性を發揮できるとともに、他者を価値ある存在として認め協働できる生徒の育成を目指し「自他尊重」を校訓としている。

そこで、深谷市の教育の基本理念である「立志と忠恕の深谷教育～ふるさとを愛し、夢をもち志高く生きる～」を踏まえ、豊かな心を育む道徳の授業を要するとともに、深谷の子「6つの誓い」の実践を通して、よりよく生きようとする生徒の育成を目指して、本主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 道徳の授業において「ねらいに迫るところ」の発問を工夫し主体的に考えさせることで、生徒の道徳的実践意欲が育まれ、また、郷土教材を取り入れた授業を実践することで、よりふるさとを大切にできる生徒が育つのではないかと。
- (2) 渋沢栄一翁の心を受け継ぐ、深谷の子「6つの誓い」を小中の連携を通して推進すれば、「夢とこころざし」、「まごころと思いやり」をもち、よりよく生きようとする生徒の育成が図られるのではないかと。

3 研究の経過

4/15	4/26	5/21	6/7	6/11	8/4	10/4	10/8	11/4	11/12	12/16
研究推進委員会	校内研修会① (学校研究課題)	第一回校内授業研究会	第一回小中三校合同 研修会	第二回校内授業研究会	校内研修会② (学校研究課題)	校内研修会③ (学校研究課題)	第三回校内授業研究会	示範授業	授業実践 (大隈重信の誘い)	中間発表会

4 研究の内容

(1) 授業研究部の取組

授業研究部では、次の三つのことに力を入れて、取り組んだ。

①授業の検討、実践 ②道徳ノートの活用

③道徳だよりの作成

授業の検討や実践では、校内研修会を定期的に設けて、授業の検討を行い、道徳的価値に迫る発問を考え実践している。研修会では、県の教材「彩の国の道徳」を使って授業の検討、実践を行った。授業の構成を考えると、内容項目の確認、クラスの生徒の実態を把握し、道徳的価値の理解、次に人間理解、他者理解、自己理解の順番で発問を構成している。右の授業作成シートを利用して、毎時間考え、

記録を残すようにしている。他にも、互いの授業がみられるように時間割を工夫して、本校では金曜日1時間目を1年生、2時間目を2年生、3時間目を3年生の道徳科の授業を設定し、確実な授業の実践ができるようにしている。

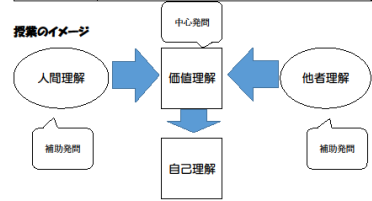
道徳ノートの活用では、年度当初は、授業のプリントを用意して補助発問から一つずつ書いていたが、授業のプリントを作らずに、生徒が考え、交流する場を多く設け、記入については、最後に本時の授業の振り返りで道徳ノートを利用している。また、価値理解の発問でも使っている。さらに、iPadを活用し、PowerPoint等で細かい色の变化で心情を表し、互いに理由を探ったり、共有して深めていく活動を取り入れている。他にも、10段階で自分の気持ちの揺れを表したり、円グラフで割合を出すなどの工夫を行い、微妙な他との違いについて、自分の言葉で表現することができ、多角的に視点を持つことができると考え、ノートに記載をしている。

道徳だよりは、家庭用を作成し、題材名・話の内容・道徳的価値・生徒のコメントを載せている。家庭でも、道徳の話をしてもらうきっかけとして月に一度のペースで発行している。

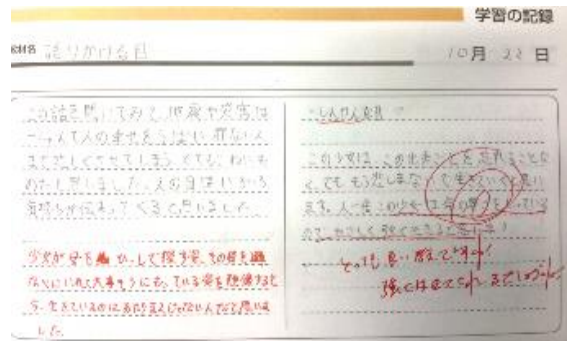
道徳だよりは、家庭用を作成し、題材名・話の内容・道徳的価値・生徒のコメントを載せている。家庭でも、道徳の話をしてもらうきっかけとして月に一度のペースで発行している。

豊里中学校道徳授業作成シート

1 単元名		内容項目	
2 生徒の実態		関連させる行事等	
3 発問を考える			
価値理解			
人間理解			
他者理解			
自己理解			



クラス	題材名	内容項目	中心発問
1-1	入試の朝	思いやりと感謝の心で 人間愛の精神を深める	あなたが車掌なら どうしますか？



道徳だよ！

【題名】 本番の中の本番たち (劇団の仲良し)

【物語】 本番の中で生計を立てようとする私。しかし、自分の自由な行動が相手です。仲間との絆が大事です。そこで、友達は自分から助けがあったかと思いましたが、父からは無理な注文が出てくる。

【登場人物】 2学期の中で、自分の個性を見つけていきたいし、個性を伸ばしていけるよという気持ちで頑張りたい。

【登場人物】 友達は頑張るのを応援してました。どんなに頑張っても、頑張ることでも、そのことを頑張ればチャンスになって、自分も気づけるプログラムの先陣になることがありました。個性を大事にして、大きくしていきたいです。

【登場人物】 本番の前、3人組のメンバー (よりよき者たち) 仲間が本番をこなしたまま、帰ってこないという。家族が心配な中ではなかなか帰らない。友達は、頑張るのを応援してました。

【登場人物】 本番の前、3人組のメンバー (よりよき者たち) 仲間が本番をこなしたまま、帰ってこないという。家族が心配な中ではなかなか帰らない。友達は、頑張るのを応援してました。

【題名】 本番の中の本番たち (劇団の仲良し)

【物語】 本番の中で生計を立てようとする私。しかし、自分の自由な行動が相手です。仲間との絆が大事です。そこで、友達は自分から助けがあったかと思いましたが、父からは無理な注文が出てくる。

【登場人物】 2学期の中で、自分の個性を見つけていきたいし、個性を伸ばしていけるよという気持ちで頑張りたい。

【登場人物】 友達は頑張るのを応援してました。どんなに頑張っても、頑張ることでも、そのことを頑張ればチャンスになって、自分も気づけるプログラムの先陣になることがありました。個性を大事にして、大きくしていきたいです。

【登場人物】 本番の前、3人組のメンバー (よりよき者たち) 仲間が本番をこなしたまま、帰ってこないという。家族が心配な中ではなかなか帰らない。友達は、頑張るのを応援してました。

【登場人物】 本番の前、3人組のメンバー (よりよき者たち) 仲間が本番をこなしたまま、帰ってこないという。家族が心配な中ではなかなか帰らない。友達は、頑張るのを応援してました。

(2) 6つの誓い部の取組

① 深谷の子「6つの誓い」の1つずつに焦点をあてて取り組む。

7～9月は忠恕の心の1つである「すすんであいさつ」に焦点をあてて取り組んだ。「元気でさわやかなあいさつキャンペーン」を開催し、授業開始と終了時の号令の姿勢やあいさつの声の大きさを5段階で評価した。全校でその合計得点を競うことで、学校全校で元気にあいさつをする雰囲気作りを行った。また、生徒会本部役員による朝のあいさつ運動を定期的実施し、生徒同士であいさつの大切さを感じることができた。



【あいさつキャンペーン取組後の学級委員の感想】

- ・声の大きさや姿勢・態度はみんなよくできていた。キャンペーン終了後も声の大きさや姿勢・態度をしっかりとしていきたい。
- ・キャンペーン前より意識してくれる人が増え、声も出るようになったと思うが、声が出ない人もいたので、このキャンペーン後も工夫してみんなであいさつをしていきたい。



【本部役員によるあいさつ運動】 【キャンペーンの結果掲載】

② 6つの誓いの1つである「心のこもったことば」に焦点をあて、コミュニケーション能力の向上を目指し、SST（ソーシャルスキルトレーニング）を実施する。

総合的な学習の時間を活用し、全学年でSSTを実施している。10月には「上手な聴き方」について学んだ。人の話を上手に聴き取ることができれば、相手の気持ちや考えを理解できるようになり、相手との心理的な距離も近づく。相手の話を上手に聴く方法を学び、円滑に人間関係を形成する力を身に付けることを目的として取り組んだ。授業では、3パターンの聴き方を比較し、お互いが気持ちよくなるための留意点を話し合った。グループ毎に実際に練習することで、よりよい聴き方を体験し、実生活につなげることができた。



【授業後の生徒の感想】

- ・何を話そうか困ったときに、質問を投げかけると会話が続いた。体を向けて目を見てくれると、聞いてくれていると嬉しくなり、もっと話がしたい気持ちになった。
- ・しっかり話をしたり、聴いたり、コミュニケーションをとることは、社会に出る上で大切なことだと思った。

(3) 環境整備部の取組

環境整備部では、次の2つのことに力を入れて、取り組んだ。

① 道徳コーナーの設置 ② アンケートの実施・集計

まず、道徳コーナーの設置では、毎月発行されている道徳通信を掲示し、道徳の振り返りや、感想の共有を行っている。今後は、豊里小学校や八基小学校の道徳掲示を参考に、工夫改善を行っていききたい。



続いて、道徳アンケートでは、右の表にある項目でアンケートを実施した。環境整備部のメンバーでアンケート項目を検討し、行事準備委員会での検討を経て、大きく2つの視点からアンケートを構成した。

1つ目の視点としては、問1から問5を道徳の要である普段の道徳の授業についての項目とし、授業研究部と連携し、授業の工夫・改善につながる分析を行っていく。2つ目の視点としては、全教育活動を通じて行う道徳教育について、問6から問

問1	道徳の授業は楽しいですか。
問2	道徳の授業では、自分とは違う考え方や感じ方があることを知ることができましたか。
問3	道徳の授業では、時と場合やあらゆる人の立場に立って、色々な角度から考えることができましたか。
問4	道徳の授業では、現在の自分を振り返り、今後に向けて行動や考え方を見つめなおすことができましたか。
問5	これまでの道徳の授業で、一番印象に残っている内容を1つ書いてください。
問6	夢に向かって努力することができていますか。
問7	毎日勉強することができていますか。
問8	たくさん挑戦・体験することができていますか。
問9	進んであいさつをすることができていますか。
問10	脱いだはき物のかかとをそろえることができていますか。
問11	相手の気持ちやその場の状況を考え、優しい言葉づかいができていますか。

11の「6つの誓い部」との連携により、学校生活全般の向上を図っていく。

道徳の授業だけでなく、学校教育全体を通し、「自他ともに尊重し、よりよく生きていこうとする生徒の育成」を目指して取り組んでいきたいと思う。

5 研究の成果と課題

(1) 授業研究部

- ・生徒の対話や考えを深められるようになりつつある。
- ・授業においては、より道徳的価値に迫る発問を考え続けていくことやその手法においても適切なものを選択していけるようにすることが課題である。

(2) 6つの誓い部

- ・「先生の話や友だちの発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができる」の質問に対し、「よくできる」と回答した生徒が56%だった。(前年度36%)。このことから、生徒は毎日の授業や家庭学習の取組を意欲的に行っていることがわかる。
- ・対人の接し方について考え行動できるようになりつつある。

(3) 環境整備部

- ・道徳への関心を家庭と連携して高めていった。
- ・道徳コーナーの継続した掲示と各部会への情報提供・教具の制作が課題である。